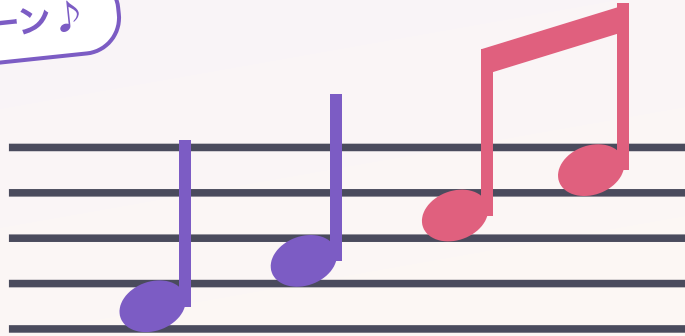


パパーン♪



楽器がいっぱい！

オーケストラの楽器

たくさんの楽器が、ひとつの音楽になる



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょ

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まりま

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

オーケストラの入り口	3～5
楽器のセクション	6～9
音を届ける人びと	10～15
オーケストラを知る・楽しむ	16～19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

オーケストラってなに？

オーケストラは、たくさんの楽器が力を合わせる大きな音楽の仲間です。

オーケストラとは、**弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器**などを組み合わせた大きな**合奏**のことです。

1人では出せない、厚みのある響きを、指揮者を中心にみんなで合わせてつくり出します。交響曲や映画音楽など、いろいろな曲を演奏します。



オーケストラの主な仲間

バイオリン

フルート

トランペット

ティンパニ

指揮者

ハープ

ここからの数ページで、それぞれの楽器グループを見ていきます。

ポイント

- 「管弦楽（かんげんがく）」ともよばれます。
- 楽器は大きく、弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器の4つに分けられます。
- 曲によって、演奏する人数や使う楽器が変わります。

やってみよう

1. オーケストラの写真や映像を見たことがありますか。見たことを書いてみよう。

.....

2. 知っている楽器の名前を、思いっただけ書いてみよう。

.....

ワンポイント 「オーケストラ」は場所ではなく、楽器の組み合わせと編成のことを指す言葉です。

書いて覚えよう

楽器の配置

舞台の上の並び方には、音のためのちゃんとした理由があります。

ステージでの並び方（一例）

指揮者のすぐ前、いちばん客席に近い場所に弦楽器が並びます。その後ろに木管楽器、さらに後ろに金管楽器、いちばん奥に打楽器という順が多く見られます。

音の大きい楽器ほど後ろに、音の小さい楽器ほど前に置かれる、と考えるとわかりやすいです。



Ken

打楽器が客席からいちばん遠いのは、音が大きいからなんだね。

Emma

そう。前のほうにいたら、音のバランスがくずれちゃうからね。



ポイント

- 並び方は指揮者や楽団によって多少ちがいますが、考え方は共通しています。
- 全員から指揮者が見えることも、大切な条件のひとつです。

やってみよう

1. オーケストラの配置図を見て、楽器の名前を書いてみよう。

書いて覚えよう

弦楽器セクション

弓や指で弦をふるわせて、音を出す仲間です。

バイオリン

violin

いちばん高い音を出す弦楽器

ビオラ

viola

バイオリンより少し低く、あたたかい音

チェロ

cello

座って弾く、低くて豊かな音

コントラバス

contrabass

弦楽器の中でいちばん低い音

ポイント

- 4種類とも、弓で弦をこすったり、指ではじいたりして音を出します。
- オーケストラの中でいちばん人数が多いセクションです。

やってみよう

1. 4つの弦楽器のうち、いちばん体が大きいのはどれですか。 _____
2. 自分の声の高さに近いのはどの楽器だと思いますか。 _____

ワンポイント 弦を指ではじく奏法は「ピチカート」とよばれ、はねるような音になります。

書いて覚えよう

木管楽器セクション

息を吹き込んで鳴らす、木や金属の管の楽器です。

フルート

flute

横に構えて吹く、明るくすんだ音

クラリネット

clarinet

リード1枚をふるわせる、やわらかい音

オーボエ

oboe

2枚のリードで鳴らす、少し鼻にかかった音

ファゴット

fagotto

低い音を出す、大きな木管楽器

ポイント

- 「木管」という名前ですが、フルートは金属製のものもあります。
- 音を出すしくみ（リードの有無や数）によって、音色が変わります。

やってみよう

1. 4つの中で、いちばん音が高いと思う楽器に○をつけよう。

書いて覚えよう

金管楽器セクション

くちびるのふるえで、金属の管を鳴らす楽器です。

トランペット

trumpet

華やかで力強い、いちばん高い金管楽器

ホルン

horn

丸く巻いた管、やわらかく遠くまでひびく音

トロンボーン

trombone

管を伸び縮みさせて音の高さを変える

チューバ

tuba

金管楽器の中でいちばん低い音

Emma

トロンボーンって、スライドを動かして音を変えるんだよ。



Ken

ほかの楽器と全然しくみがちがうんだね。

ポイント

- 息の吹き込み方とくちびるのふるえで、音の高さを変えます。
- 音量が大きく、曲の盛り上がる場面でよく活躍します。

やってみよう

1. 金管楽器を1つえらび、絵をかいてみよう。

書いて覚えよう

打楽器セクション

たたく・ゆらす・こすることで、音やリズムをつくる楽器です。

ティンパニ

音の高さを変えられる大きな太鼓

大太鼓（バスドラム）

低くて重い、大きな響きの太鼓

シンバル

2枚の金属板を打ち合わせる

トライアングル

三角形の金属を鳴らす、高くすんだ音

小太鼓（スネアドラム）

パリッとした音で、リズムを刻む

どら (タムタム)

つるした金属板をたたく、長くひびく
音

ポイント

- 音の高さがある楽器（ティンパニなど）と、高さがない楽器があります。
- 曲のアクセントや盛り上がりをつくる役目が多い楽器です。

やってみよう

1. この中で、いちばん音が長くひびくと思う楽器は？

書いて覚えよう

ハープとピアノ

弦をはじく楽器も、オーケストラの仲間です。

ハープ

harp／竖琴（たてごと）

47本ほどの弦を指ではじく、きらめく音

ピアノ

piano

曲によってオーケストラに加わる鍵盤楽器

ポイント

- ハープは足元のペダルをふんで、音の高さを変えることができます。
- ピアノは、独奏楽器としても、オーケストラの一員としても使われます。

やってみよう

1. ハープの音を聴いたことがあれば、どんな感じだったか書こう。

ワンポイント オーケストラの曲すべてにハープやピアノが入るわけではありません。曲ごとに編成は変わります。

書いて覚えよう

指揮者とコンサートマスター

大人数をまとめるのは、音を出さない2人の役目です。

指揮者

conductor

全体のテンポや表現をまとめ、演奏を導く人

コンサートマスター

concertmaster

バイオリンの首席で、演奏者側のまとめ役



Ken

指揮者は音を出さないのに、いちばん忙しそうに見えるね。

Emma

手や表情で、テンポや強弱をみんなに伝えているんだよ。



ポイント

- 指揮者は指揮棒や手の動きで、曲の速さ・強さ・表情を伝えます。
- コン서트マスターは、指揮者と演奏者の間をつなぐ役目もします。

やってみよう

1. 指揮者になったつもりで、好きな曲に合わせて手を動かしてみよう。

書いて覚えよう

チューニングの音

演奏の前には、音の高さをそろえる時間があります。

基準になる音「ラ」



ラ

オーボエが鳴らす「ラ」の音に合わせて、全員が楽器の音の高さをそろえます。

チューニング

tuning／調弦（ちょうげん）

楽器どうしの音の高さをそろえること

ポイント

- 音の高さがそろっていないと、重ねたときにきれいに響きません。
- 多くの場合、オーボエが基準の「ラ」の音を出し、みんなが合わせます。

やってみよう

1. コンサートの映像で、チューニングの場面を見つけてみよう。

書いて覚えよう

楽器の音色を聴き分ける

音色のちがいに気づくと、聴くのがもっと楽しくなります。

セクション	音の感じ	聴こえ方のヒント
弦楽器	なめらか・あたたかい	歌うようにつながって聴こえる
木管楽器	やわらかい・すんだ音	息づかいが感じられる
金管楽器	力強い・つやのある音	遠くまでひびくような音
打楽器	はっきり・アクセント	リズムを刻む、または盛り上げる

ポイント

- 同じメロディでも、どの楽器が弾くかで印象が大きく変わります。
- 最初は「弦・木管・金管・打楽器」の4つだけ聴き分けられればOKです。

やってみよう

1. 好きな曲を聴いて、いちばん耳に残った楽器のセクションはどれですか。

書いて覚えよう

登場人物ごとに楽器を変えて物語を語る曲

楽器ごとの音を順番に紹介していく曲

いろいろな動物を楽器で表した曲集

ポイント

- こうした曲は、楽器の音色を覚えるのにとっても役立ちます。
- 物語や絵を思いうかべながら聴くと、楽器の役割がわかりやすくなります。

やってみよう

1. 3つの曲のうち、聴いてみたいと思ったのはどれですか。

書いて覚えよう

オーケストラのために書かれた、複数の楽章からなる大きな曲

- 多くは4つの楽章（部分）からできています。
- 作曲家が、いちばん力を入れて書くことが多い曲の形です。
- 楽章ごとに速さや雰囲気が変わり、全体で1つの世界を表します。

1. 「交響曲」という言葉を、自分の言葉で説明してみよう。

協奏曲ってなに？

1つの楽器とオーケストラが、対話するように演奏する曲です。

交響曲

オーケストラだけ

全員で音楽をつくる

主役は決まっていない

編成が大きい

厚みのある響き

協奏曲

独奏楽器+オーケストラ

独奏者が主役

バイオリンやピアノなど

かけ合いが魅力

オーケストラと対話するように

ポイント

- 協奏曲は「コンチェルト」ともよばれます。
- 独奏者の高い技術を聴かせる場面が多く用意されています。

やってみよう

1. 交響曲と協奏曲、それぞれの特徴を1つずつ書こう。

書いて覚えよう

オーケストラのマナー

みんなが気持ちよく聴けるように、少しの心づかいが大切です。

コンサートでの心づかい

携帯電話はマナーモード

演奏中は静かに

曲の途中で拍手をがまん

咳は静かなタイミングで

楽章の間に拍手をするかどうかは会場や曲によってちがうので、まわりに合わせると安心です。

ポイント

- 演奏中の私語や物音は、演奏者にも他のお客さんにも届いてしまいます。
- 拍手は、曲が本当に終わったことを確認してからでも大丈夫です。

やってみよう

1. コンサートに行くとしたら、気をつけたいことを1つ書こう。

書いて覚えよう

オーケストラの人数

曲によって、演奏する人数は大きく変わります。

ポイント

- 小さな編成は20～30人ほど、大きな編成では80人をこえることもあります。
- 弦楽器のセクションが、いちばん人数が多いのがふつうです。
- 曲が求める響きの厚さによって、編成の大きさが決められます。



Ken

人数が多いほうが、いつも迫力があるのかな？

Emma

曲によるよ。少人数だからこそ出せる、すっきりした響きもあるんだ。



やってみよう

1. 人数が多いオーケストラと少ないオーケストラ、それぞれの良さを想像して書こう。

書いて覚えよう

小さな合奏団から、合奏の文化が広がった

楽器の組み合わせが、今の形に近づいた

編成が大きくなり、表現の幅も広がった

ポイント

- 時代が進むにつれて、使われる楽器の種類と人数が増えていきました。
- 現在のオーケストラの基本の形は、こうした歴史の積み重ねの上にあります。

やってみよう

1. 3つの時代のうち、聴いてみたいのはどれですか。

書いて覚えよう

オーケストラの一日・聴きに行こう

本番までにも、聴きに行くときにも、それぞれの楽しみ方があります。

オーケストラの一日

個人練習

自分のパートを仕上げる

合わせ練習

全員でリハーサルをする

本番

お客さんの前で演奏する

聴きに行くときは

服そう

きちんとした服そうがおすすめ

時間

開演前に席についておく

プログラム

曲の説明を先に読んでおく

ポイント

- 本番までには、何度も練習を重ねています。
- はじめてのコンサートは、プログラムを事前に読んでおくと安心です。

やってみよう

1. もしコンサートに行くなら、どんな服そうで行きたいですか。

書いて覚えよう

聴いてくらべよう

2つのオーケストラ曲をくらべると、ちがいがよくわかります。

くらべるところ	曲A	曲B
速さ	速い・ふつう・ゆっくり	速い・ふつう・ゆっくり
目立つ楽器	_____	_____
人数の印象	多い・ふつう・少ない	多い・ふつう・少ない
感じ	_____	_____

ポイント

- 同じ作曲家の曲どうしをくらべると、共通点を見つけやすくなります。
- 目立つ楽器に注目すると、曲の印象がつかみやすくなります。

やってみよう

1. 交響曲を1曲と、協奏曲を1曲えらんで、表を完成させよう。

書いて覚えよう

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

体を使って、オーケストラの合わせる感覚を体験しよう。

A (指揮のまね) 両手でゆっくり4拍子をふる

B (手拍子で) ゆっくり4拍子をたたく

A (少し速く) テンポを上げる

B (合わせて) _____

A (止める合図) 両手を止める

B (こたえて) _____

ポイント

- Aが指揮者、Bが演奏者になって、テンポを合わせる遊びです。
- 慣れたら役を交代して、両方の立場を体験してみましょう。

ワンポイント 指揮者を見て合わせる感覚は、実際のオーケストラでもいちばん大切にされています。

書いて覚えよう

聴き分けが苦手でも、練習すればコツがつかめます。

よくあること

種類が多くて混乱する

全部同じに聴こえてしまう

こうしてみよう

弦・木管・金管・打楽器から

毎回ちがう楽器に集中する

- 一度に全部覚えようとせず、1つずつ増やしていきましょう。
- 映像で見ながら聴くと、どの楽器が鳴っているかわかりやすくなります。

1. 次に曲を聴くとき、注目したい楽器を1つ決めよう。

[illegible]

用語をおさらい

この教材でてきた言葉を確認しよう。

楽器のグループ

☐ 弦楽器

弓や指で弦をふるわせる

☐ 木管楽器

息を吹き込んで鳴らす

☐ 金管楽器

くちびるをふるわせて鳴らす

☐ 打楽器

たたく・ゆらす・こする

人びと

☐ 指揮者

全体をまとめて導く人

☐ コンサートマスター

演奏者側のまとめ役

曲の形

☐ 交響曲

オーケストラのための大きな曲

☐ 協奏曲

独奏楽器とオーケストラの曲

音を合わせる

☐ チューニング

音の高さをそろえること

☐ 編成

使う楽器と人数の組み合わせ

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。名前を知ると、演奏を見つけるのがもっと楽しくなります。

書いて覚えよう

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 言葉と意味を線でむすぼう

- | | | |
|--------|---|---------------------|
| バイオリン | ● | ● ア. 音の高さを変えられる打楽器 |
| オーボエ | ● | ● イ. 指ではじく、きらめく音の楽器 |
| トランペット | ● | ● ウ. 2枚のリードで鳴らす木管楽器 |
| ティンパニ | ● | ● エ. 弦楽器の中でいちばん高い音 |
| ハープ | ● | ● オ. いちばん高い金管楽器 |

2. オーケストラの4つの楽器グループを書こう

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____

3. 正しいほうに○をつけよう

1. オーケストラのための大きな曲 → (交響曲 / 独奏曲)
2. 全体をまとめて導く人 → (指揮者 / 作曲家)

書いて覚えよう

オーケストラの曲を1曲、聴いてみる

1つの楽器の音だけに注目して聴く

指揮者のまねをして手を動かす

楽器の名前と音をノートにまとめる

気に入った楽器を1つ書き出す

家族に楽器のグループを説明する

- 1回5分でも、毎日続けることがいちばんの力になります。
- 映像を見ながら聴くと、楽器と音の結びつきが覚えやすくなります。

発表してみよう・感想を書こう

好きなオーケストラ曲を、人に伝えてみよう。

曲名

作曲家

好きなところ

目立っていた楽器

聴いてほしい人

Ken の例

曲名 交響曲の一部／好きなところ 金管楽器が盛り上がる場所／目立っていた楽器 トランペット
／聴いてほしい人 吹奏楽部の友だち

感想を3文で書こう

① この曲は、～な感じがしました。② とくに、～の楽器が印象に残りました。③ それは、～だからです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

オーケストラの世界は、ここからどんどん広がります。

もっと知りたい人へ

動画で

演奏会の映像をじっくり見る

図書館で

楽器図鑑を借りてみる

演奏会へ

地域のコンサートに足を運ぶ

次のステップ

バロック

オーケストラの原点を知る

交響曲

1つの曲を深く聴きこむ

指揮

曲のまとめ方を体感する

ポイント

- この教材の次は「バロック」。オーケストラが生まれた時代へさかのぼります。

書いて覚えよう

オーケストラの楽器チャレンジ

教室の外でも、オーケストラの音はすぐに楽しめます。

見つけよう

映像や動画で、指揮者の動きを観察する

聴こう

同じ曲のちがう演奏を聴きくらべる

表そう

好きな楽器の音まねを声でしてみる

こたえ

L26 バイオリン→エー オーボエ→ウー トランペット→オー ティンパニ
→ア ハープ→イ 2. 弦楽器 / 木管楽器 / 金管楽器 / 打楽器
3. 交響曲 / 指揮者

L33 (例) オーケストラは、弦・木管・金管・打楽器が力を合わせる大きな合奏。

書いて覚えよう

オーケストラの楽器 (Season 6 | No.52)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができます。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。